

フィットニア (Fittonia) のさし木について (予報)

中山 長 秀

フィットニア (ベニアミメグサ・シロアミメグサ) は、南米ペルー原産の植物で、温室観葉植物として、つり鉢、日陰の地被植物として栽培される。寒さに弱く、加温しない室内では越冬が困難な植物である。

温室内の地被植物として苗を得る目的で、さし木により繁殖を試みたところ、ベニアミメグサの葉ざしの不定芽発生がシロアミメグサよりかなり遅かった。そこで、あらためて芽ざし、葉ざし (全葉ざし、葉片ざし) を行い、その差を調べたので報告する。

材料及び方法

材料は、図1のように調整し、育苗パットを用い、パーミキュライト床にさした。(1978年7月3日) 各区5個体とし、処理後温室内のたな下で管理した。灌水は、夏期には1日1回、冬期には3日に1回程度とした。芽ざしは同年10月12日、葉ざしは翌年2月9日に掘り上げ調査した。乾燥重は風乾3日後に化学天秤で計測した。移植可能な芽は6葉以上のものとした。

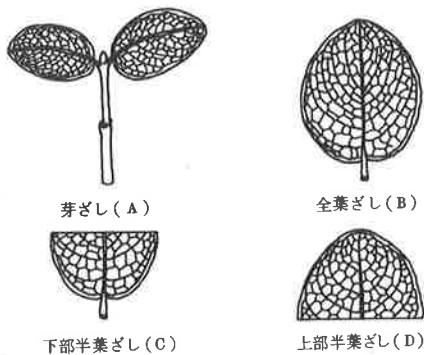


図1 処理の方法

結 果

芽ざし

ベニアミメグサ・シロアミメグサとも約3ヶ月後には、充分発根し移植可能な状態であった。

しかし、発根の状態には大きな差があり、後者は前者に比べ発根数は多いが、細いうえに分枝数も少なく、根重も軽い。(表1)

葉ざし

全葉ざし、葉片ざしとも、シロアミメグサが優れていた。また、全葉ざしの方が葉片ざしより結果はよかった。(表2)

なお、葉片ざしの上部半葉ざし (D区) で主脈だけでなく、側脈からも不定根、不定芽とも生じているものが見られた。

表1 芽ざしにおける発根

材 料	発 根 数		乾 物 重	
	平均	合計	平均	合計
シロアミメグサ	21.8	109	24.15	120.85
ベニアミメグサ	5.8	29	45.26	226.30

表2 葉ざしにおける不定芽形成

処 理	不定芽数		移植可能不定芽数 ^a		
	平均	合計	平均	合計	
	芽	芽	芽	芽	
シロアミメグサ	B区	9.8	49	2.2	11
	C区	5.6	28	1.2	6
	D区	5.2	26	0.8	4
ベニアミメグサ	B区	4.2	21	0.2	1
	C区	3.6	18	0	0
	D区	2.6	13	0	0

a 6葉以上に成長した芽

考 察

フィットニアは芽ざしが容易であるが、一度に多くの苗を得るためには葉ざしが優れている。しかし、ベニアミメグサでは長期間を要するという問題がある。実験処理数も少なく、材料も乏しいため十分な考察は出来ないが、今後引き続いてどのようにすれば多量の苗をより早く得られるかを調べ報告する予定である。